

落^{おち}然^{しか}然^りの^もみや更^{さら}ぬその素^す性^{じよう}と明^{あき}き^きは^の是^{こゝ}より后^{のち}を^の
 謝^{まう}で。多^{おほ}量^{りやう}叙^{ぎよ}酒^{さけ}店^{てん}と美^い名^なく人々^{ひとびと}に^を傳^{つた}へり^を

所言之老母が尋常波小岡が縁。寢る心ありん

りの。雖も斯をわづけし。婦人の心も

十三年八月
夢の野を歩く
似うとくども。時ふと月を
新紙に
る。

是日
微雨

教訓御札草紙初編

